

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2017

1月

No.139



特集
P2・3

2017年の宍粟市社協
理事の新春メッセージ

「ほっとけない」をほっとかない宍粟に
支え合いの地域づくりを



ひ孫と
いっしょ

シリーズ138

波賀町 安賀

宮内 龍夫さん(80歳)

満千代さん(74歳)

登生くん(8ヶ月)

宮内 綾大さん・舞佳さん

■長男

あけまして

おめでとう

ございます



年頭にあたり本会理事
15名から新春メッセージ
をお届けします。

福祉のまちづくり

もりもと ときお
森本 都規夫 会長

(波賀町谷)



新年のお慶びを申し上げます。

社会福祉協議会の目標は「福祉のまちづくり」を推進することです。地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを使命としています。市民の皆さんの理解と協力の上に成り立つことでもあると思っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

迫りくる「介護は地元で」

あずみ もりひさ
安積 盛久 副会長

(二宮町曲里)



増え続ける高齢者の介護を見据えた介護保険法改正。国は各自治体による地域支援事業となるよう体制の整備を求めています。

ひいては「住民がサービス（奉仕）を受ける側からサービスをする主体へ」となるのです。

避けられない「地域住民同士の助け合い」。皆様とその仕組み作りのお手伝いに努めます。

心豊かなまちづくり

のむら かずお
野村 和男 副会長

(山崎町元山崎)



少子高齢化が進む中、地域でのつながりが重要になってきます。

みなで助け合い支え合う「心豊かなまちづくり」のため、社協はお手伝いしています。皆様のご理解、ご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

いざという時

困らない地域に

やまだ かずあき
山田 一秋 副会長

(千種町河邑)



一人では何も出来ないかもしれませんが、一人ひとりの力が集まれば、いざという時にも困らない、安心できる地域が出来ると思います。『ほっとけない』をほっとかない穴栗の実現に向けた取り組みを進めていきますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

2017年の穴栗市社協

理事の新春メッセージ

『ほっとけない』をほっとかない穴栗に

支え合いの
地域づくりを



「想い」を具現化するために

いちじょう じろ
伊藤 次郎 理事

(山崎町段)



最近、地域福祉活動に取り組んでおられる皆さんが「コミュニティビジネスで地域をつなげよう」とのテーマで大学教授を招聘し勉強会を自主開催されました。

「想い」の具現化に向けた「コマでした。市内のあちこちでこのような「共創力」を養う真摯な活動でステップアップが図られておられることに感謝します。

地域のつながりを大切に

かじもと
梶本 みゆき 理事

(山崎町庄能北)



昨年の10月に開催されました「第6回穴栗市地域福祉のつどい」に参加しましたが、活動発表された3団体に感激いたしました。

少子高齢化の中で、地域での支え合いづくりの大切さ、安心して暮らせる福祉のまちづくりにつながることを願っております。

本年も、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

復活、地域のつながりGO!!

やまだ こ
山田 クニ子 理事

(山崎町杉ヶ瀬)



おせっかいをやく人も少なくなり、人と人との繋がりも薄れている昨今。無縁社会を無くする為に、勇気を出しておせっかいの第一歩を踏みだして、向こう三軒両隣の見守り活動、誰もが安心して暮らせる地域づくりの一端を担っていききたいと思っています。

子どもの貧困問題

うすき よしひさ
薄木喜久 理事

(二宮町百千家満)



子どもの貧困の状況を耳にしてから相当時間が過ぎていますが、市の議会だよりに一議員が質問されていました。深刻な状態がきています。

高齢者比率も高まるなか子どものための財源が確保しにくい状況はありますが、他の予算を削つても確保してもらうよう願うものです。

「ほっとけない」をほっとかない

六栗を合言葉に！

とちお たきこ
柺尾多喜子 理事

(二宮町福野)



「ほっとけない」をほっとかない六栗は、社協活動を充実させる合言葉であり、地域の皆さん、一人ひとりの活動を後押しする合言葉です。

見守り、助け合い、お互い様の心を大切に、自分出来る何かを…。社協もお手伝いします。

今日も一日、今でしょ!!

やまね まさる
山根勝 理事

(波賀町安賀)



六栗市内のどこかで、年間を通して土曜か日曜に、地域おこしや地域の活性化をめざし、イベントが開催されています。誰もが心や活動のつながりを大切に求めている証しです。住民だれもが孤立することなく安心して暮らせるつながり仕組みづくりを目・気・足・心配りで展開しましょう。

六栗市社協の発足から11年、この間、世の中の状況は大きく変化し、福祉関係の各分野においても大きな改革が行われています。

2017年は地域福祉のさらなる充実をめざし、第3次地域福祉推進計画(愛称…支え合いふくしプラン)を推進して参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

地域全体が

大家族のように

うえだ みよこ
植田美代子 理事

(波賀町野尻)



年を重ねていく事を忘れ、あれもこれも欲ばり楽しむ毎日でしたがちよつと疲れが出ました。

その時、地域の皆さん、友達の支えや声かけを受ける身になってつくづく思つた事…「心」が淋しくなっている時こそ気づき声かけの優しさがあるに嬉しかった事か。この事を肥やしに地域全体が大家族のように…お互いが支え合う地域福祉をめざしたいと思っています。

生涯現役で暮らせる

まちをめざして

いわがき しずよ
岩路静代 理事

(千種町奥西山)



私のまわりには生涯現役で活躍している大先輩がたくさんいます。人間はいくつになっても社会を支える担い手として、長年培った豊富な知識や経験を生かして、地域社会に参加していくことが必要です。その中から、自分に見合った生きがい、やりがいを探すことで元氣な自分を発見できるはずですよ。

福祉連絡会のパワーアップを

おおたに よしあき
大谷義明 理事

(千種町河内)



各地域の福祉委員さんによる住民主体の取組みがされる中、来年度より総合事業への移行が始まり、福祉連絡会の重要性がさらに増してきます。

見守り活動の中で得られる情報を、支援のために地域全体で共有して地域福祉を進めていけたらと思います。

68才からの新たな船出！

ひらおか ちえこ
平岡千恵子 理事

(山崎町高下)



理事として7年、新たな年を迎えました。

この間、社協職員の方々に地域福祉の取組み方を学び、現場の生き甲斐や苦しみを共有し、有意義な日々でした。

今後は、地域づくりをライフワークとして、あらゆる角度から可能性を開拓していきたいと思ひます。

つながり支え みんなで築く

六栗のふくし

しみず しろう
志水史郎 理事

(六栗市健康福祉部次長)



市民と、ボランティア、福祉施設、社協、行政が連携して、子どもから高齢者まですべての市民が住み慣れた身近な地域で、心豊かで生きがいをもち、支え合い、安心して暮らしていける六栗市を築きあげていきましよう。



や

まさき

支え合い活動の題材を発見!

城下地区福祉連絡会で県外を視察

12月3日(土)、中比地福祉連絡会では、福祉委員から県外視察研修の報告があり、自分たち出来る「地域づくり」や「支え合い活動」について話し合いが行われました。

説明では、毎週サロンの開催日に、自治会館から電話や訪問で見守りを行う「ふれあいホットライン」や、病院の送迎や草刈りなど、日常生活を支える有償の「お手伝いボランティア活動」が大きな関心を引きました。

福山高文中比地自治会長は「視察で学んだことを今後の活動に取り入れたい」と話されます。

とを機会に開催されました。

視察には、城下地区福祉連絡会から「これからの地域づくりや支え合い活動の参考になる視察先はないか」と相談を受けて、社協の生活支援コーディネーターが同行しました。

「やいから福祉の会」は、月に半日のボランティア活動を合言葉に、20年以上活動が続いています。



五十波自治会「e生活応援隊」のご近助ボランティア活動も「さくら福祉の会」の活動をお手本の一つに(桜馬場自治会館にて 11/25)

(山崎支部 春名豊滋)

い

ちのみや

福祉連絡会の頑張りに感謝

本谷ふれあい喫茶「美心」

12月18日(日)、祖母といっしょに向かった先は、私の地元本谷で行われるふれあい喫茶「美心」。公民館に到着すると「ねえさん、久しぶりやなあ。元気しとつか」と、祖母は声をかけられ満面の笑みです。

本谷ふれあい喫茶「美心」は、福祉連絡会の福祉委員さんが中心となり、隣保の持ち回りで開催されています。

12月は、山内和彦さん(深河谷)を招いての「クリスマス&マジックショー」。会場には住民の半分近くになる65人が参加し賑わっていました。

会場では、「このマジック昨年は見たかなあ。器用なことするもんじゃ」「昼からゲートボール行くん? ほな私も行こかな」など、ケーキを食べながら楽しそうな会話が聞こえてきました。

喫茶に参加し、地元住



幅広い世代が集まる場となりました(本谷公民館)

民の一人としてこういった顔の見える交流の場があることに嬉しさを感じるとともに、福祉連絡会の頑張りに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

このような福祉連絡会の取り組みを効果的に進めていくにも、社協職員がしっかりと活動を支援していくことが大切です。

(一宮支部 岡崎章訓)

や・い・は・ち トピックス

みんなの想いをCDに込めて

波賀中学校2年生が大島さんを訪問

「点字教室ありがとうございました。大島さんの話や点字の感想をCDに入れました。ぜひ聞いてください」

12月19日(月)、波賀中学校2年生鈴木清太郎君ら4人が視覚障がい者であり盲導犬ユーザーである大島千明さん(波賀町安賀)宅を訪問し、みんなの想いを込めたCDをプレゼントしました。

これは福祉学習(点字教室)で講師としてお世話になった大島さんへ感謝の気持ちを届けようと、35人の生徒一人ひとりが感想文を読み上げ作成したものです。

CDには「世間での視覚障がいのある方への心遣いが足りない」と思い悲しかったです。「自分から勇気を持って目の見えない人が困っていたら助けなければいけないと思いました」など、学習を通じて感じたみんなの想いが詰まっています。



大島さんとの出会いが生徒たちを育てます

大島さんは「みんなとても素直で、真剣に授業に取り組んでくれました。外で出会ったら声をかけてください」と話されました。

本会では、福祉学習を通して生徒と当事者の方々との交流やふれあいを大切にし、「福祉の心」が育めるような学習の場を提供していきます。

(波賀支部 田中祥仁)

若い力で地域を元気にしたい!

千種高校ボランティア部

12月15日(木)千種高校では、人権問題に対する正しい認識を図ることを目的に、「青年期人権教育研究会」を開催しました。

研究会では、人権に配慮した活動として、ボランティア部が平成2年から取り組んでいる社協の『配食サービス』について発表しました。

発表では、お弁当を配達する様子をスクリーンに映しながら、生徒と利用者の会話や活動後の記録の仕方など分かりやすく説明。

「お弁当を持って行った時、利用者さんからの『ありがとう』の言葉が一番うれしい」「元氣な姿をみたら安心する」といった感想からも活動への意識の高さが伺えました。

発表の最後に、「若い力

で地域を元気にしたい」「高齢者の方との関わりが大切だ」との力強い言葉が生徒から聞かれ、会場から大きな拍手が起りました。

このように、配食サービスを通じて利用者の方々との時間を大切に行っているボランティア部のみなさん。これからもこの活動が長く続いていくことを期待しています。

(千種支部 横山洋子)



ボランティア部11人で発表しました(千種高校体育館)

はが

ちくさ

点訳ボランティアに参加してみませんか



点訳とは、視覚に障がいのある人のために点字で資料や本を作成することです。

「点訳グループあい」では、視覚障がい者の方のニーズ(要望)に合った点訳資料・点訳本を作成したり、福祉学習で小・中学生、高校生への点字指導をしています。

初めての方でも大丈夫です。定例会をしていますので、気軽にお問い合わせください。

【主な活動】

- 点訳資料、点訳本の作成
- 小・中学生、高校生への点字指導
- 青い鳥学級へのサポート活動
- 定例会…第2(水)AM、第4(土)PM

場所: 宍粟防災センター

△問合せ: 山崎支部 ☎62-5530

「ぶるーべりい会」のみなさん ありがとうございました

平成25年に退職世代メンバーで結成のボランティアグループ「ぶるーべりい会」。普段は、「はりま自立の家」(一宮町伊和)を拠点に入居者の方の作業や施設行事のお手伝いをされています。

この冬も、恒例となっている「1.17竹筒づくり」や「サンタクロース派遣事業」のスタッフとして活動されました。

1.17竹の伐り出し 竹筒づくり



竹林から60本の竹を伐り出し、後日、他のボランティアグループと協力し竹筒づくりを行いました

歳末たすけあいサー
ビス(サンタクロ
ース派遣事業)



保育所、幼稚園、福祉施設のクリスマス行事に参加し、夢を届けました(市内8カ所)

はりま自立の家から クリスマスリースが届きました



心あたたまる贈り物をありがとうございました

12月6日(火)、「はりま自立の家」(一宮町伊和)からクリスマスリースが届きました。持ってきてくださったのは、大久保辰夫さん、藤田亨さん、スタッフの方々。

「ボランティアの方といっしょに、一つひとつ心を込めて作りました。ぜひ飾って下さい」と話されました。

緑鮮やかで大きな杉葉のリースは、見る人をあたたかな気持ちにさせてくれます。

このリースのプレゼントは、施設が開設された頃から30年以上、毎年、多くのボランティアの協力で作られ、市役所や警察署、消防署をはじめ、約70か所に一つひとつ届けているとのこと。どうもありがとうございました。

(本部・一宮支部 可藤和成)

ろうあ協会と手話サークル連絡会 みんなで楽しむ クリスマス



各グループから楽しい出し物が披露され、たくさん笑顔が見られました

12月18日(日)、宍粟ろうあ協会と宍粟手話サークル連絡会がクリスマス交流会を開催しました。この交流会は、ろう者と健聴者の交流を深め、ボランティア同士のつながりをつくりたいとの思いで、昭和63年から続けられています。

当日は、宍粟防災センターを会場に53人が参加し、ゲームや劇をいっしょに行い、会食をしながら楽しいひとときを過ごしました。参加者からは「顔を合わせて集まる機会は大切」「楽しみながら手話を学べる場にもなっている」との声が聞けました。

ろうあ協会、手話サークル連絡会のみなさん、これからもクリスマスの楽しい交流を長く続けてください。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)